

創刊にあたって

京都大学大学院教育学研究科の生涯教育学講座の研究成果を集録し、『京都大学生涯教育学・図書館情報学研究』(*Journal of Lifelong Education and Libraries*)と名付けてここに発刊する。生涯教育学講座は、誕生から死までの、人間の一生涯にわたって行われる教育活動を学問対象とする講座である。教育活動とは、必ずしも学校教育のように制度化された活動のみを意味するのではない。とりわけ成人にとって自己教育は最も望ましい教育活動であり、例えば生涯学習の一つの機関として図書館の果たすべき役割も大きい。

生涯教育、生涯学習という語が定着して久しいものの、学問としての固有の方法はなく、また客観的にみて学問のレベルも高いとはいえない。そうした意味で、未熟で未開拓な学問領域といえる。逆にいえば若い研究者や学徒が自由に振るまえる分野でもある。『京都大学 生涯教育・図書館情報学研究』は博士課程の院生が主体となって刊行していくが、大いにその成果を期待している。

生涯教育学講座は昨年度に国際雑誌 *Lifelong Education and Libraries* を創刊し、今年度には本誌を発刊した。短期間に2冊の雑誌を抱えることになった。雑誌の継続発行自体が目的になってはならず、教員、院生のいっそうの研究意欲が求められる。

ところで、『京都大学 生涯教育学・図書館情報学研究』発刊の趣意は、研究室における成果を蓄積、記録して、研究・教育をさらに進展させることにもある。先人の業績を批判的に踏まえて自己の糧とするのは、およそ学問探究の基本であろうが、研究室における個人研究、共同研究、演習、実態調査に長期的な展望をもたせようとする場合、成果の継承はことのほか重要である。また、研修員、大学院学生など、研究室の若い研究者の流動性は高く、ときには始めからやり直さねばならないこともあって、この面からもこれまでの学問上の収穫を着実、効率的に受け継ぐ必要があった。『京都大学 生涯教育学・図書館情報学研究』の発刊は、研究上のみならず教育上も、こうした必要を充足することを意図しているが、ひろく生涯教育学や図書館情報学にかかわる学問の世界に、なにほどこかの貢献をすることになれば、これにまさる喜びはないし、貢献しなくてはならない。

2001年4月18日

川崎良孝